

APRICOT2023 参加支援プログラム

参加報告書

株式会社インターネットイニシアティブ
白間夕海

はじめに

本報告書では、2023年2月27日(月)から3月2日(木)にかけてフィリピン・マニラで行われた APRICOT2023 の参加報告を行う。参加したセッション、その中で特に印象に残ったセッション、今後この経験をどう生かしていきたいか、最後に本プログラムに対する所感について述べる。

1. 参加したセッション

Day 1(2023/2/27)

- APNIC Foundation: fostering technical community action on climate and inclusion
- Opening Ceremony and Plenary
- APNIC Cooperation SIG

Day 2(2023/2/28)

- APOPS 2
- APRICOT Peering Forum 1
- APRICOT Peering Forum 2
- APRICOT Peering Forum 3

Day 3(2023/3/1)

- Diversity & Inclusivity in Tech
- Network Operations 1
- Internet Technology
- APNIC Global Reports

Day 4(2023/3/2)

- Packet Analysis Tutorial
- Segment Routing: SRv6
- P4 (Programming Protocol-independent Packet Processors)
- Closing Plenary

2. 印象に残ったセッション

① APNIC Foundation: fostering technical community action on climate and inclusion(2/27)

&

Diversity & Inclusivity in Tech(3/1)

2/27 のセッションでは、環境問題に対するインターネット運用観点からの問題提起と、東南アジアの女性とLGBTQI+のエンジニアの技術支援等を行う「Switch!」というプロジェクトの紹介があった。

3/1 のセッションでは Switch!プロジェクトの参加者が登壇し、それぞれの経験についてディスカッションを行った。

会期中は、この Switch!プロジェクトの参加者と交流し、フィリピンを中心とした同年代の女性エンジニアとのつながりを得ることができた。また、3/1 のセッションで同年代の方たちがステージで発表をしている姿には大いに刺激を受けた。3/1 のセッションでは、ベトナム出身でホテル経営を学んだあとホテル業界に就職し、そのあとエンジニアに転身した方が登壇していたが、海外のエンジニアと話していて文学部出身というとても驚かれたため、このように他の専門分野を学んでエンジニアになる例はめずらしいことのように感じる。日本では、大学で多種多様な分野を学んでエンジニアになる人も多い。Diversity の観点では一定の先進性があるのかもしれないと感じた。自分が文学部出身であることはコンプレックスを感じこそすれ、メリットを感じたことはなかったが、エンジニアリングを学んできていない自分だからこそ生かせる特性や道を模索していきたいと感じた。

② Segment Routing: SRv6

SRv6 についての発表であった。SRv6 については、ネットワークスライシングを活用した 5G ネットワークに対応するためなど必要性が増している。

中でも、特に Softbank:Takeshi Sensui 氏の発表が興味深かった。このパートでは、5G のモバイルネットワークに SRv6 を実装した例についてオペレータの立場から述べられていた。Sensui 氏によると、実装時には大量のルータを導入するため自動化が不可欠であった。また、運用にあたって下記のような課題があった。

- SRv6 の SID の Function Length がベンダーによって異なるため、運用相互性の観点で課題がある

- ISIS の MTID2 をサポートしていないルータがある

実装時に直面する可能性のある課題について紹介されていて、大変参考になった。通信業界では標準化が重要ということも改めて感じた。

③ P4 (Programming Protocol-independent Packet Processors)

P4 についての Tutorial セッションで、デモを交えての説明があった。

初学者にとっては、P4 について体系的に学ぶことができるわかりやすい内容となっていた。

本セッションではハンズオンはなかったが、別の Tutorial セッションはハンズオンが用意されているものもあったため、初学者は興味があるものがあれば Tutorial セッションにも参加してみると参考になるかもしれないと感じた。

3. 今回の経験を今後どのように生かしていきたいか

① 海外の技術動向に目を向ける

プログラムでは、海外の技術動向や実例などについて幅広く学ぶことができた。その過程で、自動化がネットワークエンジニアに必要なスキルだと感じた一方で、SI において自動化を実装するには大きな壁がある。お客様から頂いている金額の範囲内の工数で自動化を実装するのが難しいためである。必要スキルであるが普段の業務で取り組むのは難しい、このギャップをこれから自身のスキルアップを目指す上でどう埋めるべきか考える必要があると感じた。まずは、今回の経験をきっかけに海外の技術動向にも目を向ける。

② より実践的に英語で交流できる場に参加する

今回、渡航前に考えていたよりもスムーズに英語でのコミュニケーションが取れなかった。特に、セッションの内容が自身の体感で半分も聞き取れなかったことはショックを受けた。

この原因は、英語が母国語でない国からの参加者が多く、各国のなまりが聞き取りにくかったことと、普段は英語の拙い日本人と話し慣れている外国人と話す機会が多いために、ビジネスでやり取りされるスピードについていけなかったことがある。

今後、同様の国際会議や各地域の NOG など、より実践的に英語で交流できる場に参加する。

③ 普段業務で扱うネットワークの先にはインターネットがあることを意識し、人とのつながりを大事にしていく。次回は LT に挑戦する

私は JANOG も参加したことがなかったため、今回の経験で初めて、会社間の協力やインターネットが運用されていること、インターネットの発展のため知見のある人たちがノウハウを共有しあって今日のインターネットがあることを知った。

また、インターネットのつながりには人とのつながりが不可欠であることを垣間見ることができた。また、同年代のエンジニアが自分の経験をステージ上で話している姿には刺激を受けた。次回はぜひ LT に応募したい。

- ④ 自分なりに日本のネットワークエンジニア、IJJ のプレゼンス向上に貢献する。
今回初めて国際会議に参加してみて、海外でもインターネット業界での IJJ のプレゼンスが高いことを感じ、その社員としての未熟さを思い知ることとなった。まずは IJJ 社員としてネットワーク技術に精通できるよう業務に取り組む。
一方で同年代の各地で働くエンジニアには IJJ が知られていないことも多く、今後も海外のコミュニティに参加し発信することで、自分なりに日本のネットワークエンジニア、IJJ のプレゼンス向上に貢献したい。

4. 参加プログラムに対する所感

この度は貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。
JPNIC の皆様のサポートのおかげで大変有意義な時間を過ごすことができました。
会期中のサポートが大変ありがたかったのはもちろん、事前交流会でプログラムを見ながら説明頂いた内容がとても参考になりました。プログラムを見ただけではわかりにくい、登壇者が何をしている方か、SIG や APOPS のセッションが具体的に何を話すものなのか事前に把握でき、参加したいセッションを選択するのに役立ちました。
また、心よく今回の参加を許可して下さった上長の皆様、忙しい中業務調整して頂いた社内の皆様にもこの場を借りて感謝を申し上げます。